

児童の色彩表現に関する研究

—色造形紙を用いた図画工作科授業をととして—

Study on the Color and Form on the Drawing Exercise at the Elementary School
- From the Analysis on the Work made by the First Year Children-

小林 智砂
佐藤 昌子

Chisa Kobayashi
Masako Sato

大阪市立大学
大阪市立大学

Osaka City University
Osaka City University

キーワード：色と形、紙工作、小学校、図画工作授業

Keywords : color and form, paper arts, elementary school,
drawing exercise

1. はじめに

小学校の図画工作科授業は、ヒトの発達過程において共通に体験する色彩教育である。授業の中でとり扱われる多岐の課題の中で特に工作課題は色彩表現ばかりでなく、立体表現や空間表現の学習において大きな影響力を持つものとして位置づけられる。

前報では小学校図画工作科担当教員へのアンケート調査から授業の中での色彩指導の行われ方、教師自身が子どもの色彩嗜好の傾向をどのように把握しているのか、予測結果について報告した⁽¹⁾。本報告では、小学校1年生を対象とした図画工作科の実験授業を計画実施し、前報との関係を分析した。実験授業は、色ばかりでなく、切る、折る、貼る、曲げるといった造形操作をとともなう紙工作を取りあげ、出来あがった作品から子どもの色の嗜好性、色と形の組み合わせに見られる子どもの表現能力、興味の対象を明らかにした。本報ではその中の色の嗜好と色と形の関係について報告する。

2. 実験授業

図画工作科実験授業は大阪市立H小学校1年生、全3クラス(108名、男子49名・女子59名)を対象に行った。授業課題は「すきないろ、いろいろなかたちをたたせてみよう」である。すなわち色造形紙(表1:教師のアンケート調査で使ったものと同じ)、による立体造形活動を課す授業である。

3. 実験方法

実験は3クラスとも図画工作室で行い、第2・3時限(100分授業)を3日間同じ内容の授業で3回行った。指導担当教員は3クラスとも別人であるが基本的に同じ指導内容とした。キーポイントとなる指示は4項目であり、授業の進行順は以下のとおりである。

1) 各グループごとに教室横に用意した20色の色

造形紙の中から一番好きな色を1色選択させる。

2) 先に選択した色造形紙を土台(台紙)と考え、その上に乗せる色を2色選択させる。色選択には台紙の色に「合う、似合う」と思う色の条件を付けた。

3) 工作内容である。最初に選択した一番好きな色を土台(台紙)とし、次に選択した2色の色造形紙から自由にいろいろな形、好きな形を作り、その形を立体的に立たせて貼らせる。そのときに何を作っているのかを考えながら作ることも加えた。

4) 作品に表題をつける。

4. 実験授業の結果及び考察

2-1. 子どもの色の嗜好性

「子どもが第1番目に好きな色」として選択した色造形紙と前報において子どもが選択するであろうと教師が予測した色の関係を子どもと教師の選択比率として表したものが図1である。子どもが1番目に選択した色を男女別に見るとどちらも青系色相の選択数が上位だが、男子はA-5、女子はB-6と明度の違うものが選ばれている。なお、男子は2番目、3番目の選択色ではA-4の緑系、女子の2番目選択色はB-8の赤系が、3番目選択色ではB-9の黄系が上位に選択された。1番目に選択した色造形紙の色相を基本にし、2・3番目に選択したそれぞれ2色の色造形紙との配色関係を色相分類を中心に見ていくと、1番目選択色の赤系を基本色とした配色では黄～黄赤系、紫系との組み合わせが多いことにより、類似と中差配色が同程度見られた。1番目選択色が黄赤系での類似配色が全体の半分以上を占めた。1番目選択色で黄緑系、緑系を選んだ子どもは少なかったが、2・3番目の選択色の色相範囲が広がったことから全ての色相配色が出現していた。全体的には、子どもの配色嗜好は中差～類似配色に該当した。

2-2. 紙工作作品に見られる色と形の影響

土台(台紙)の上に貼り付けた形を具象形(実験者から見て具象物を同定できるもの)、抽象形(具象物を同定できないもの)の大きく2分化し分析した。具象形の表現に使われた色を、男女別に見ると表2に示すと

り男子、女子ともに共通して出現している形と出現していない形がある。男子は太陽と怪獣、女子ではリボン、昆虫系(蝶)、食物系(りんご)などそれぞれ男女別の違った形として表れている。性別による出現特徴から、一般的に男の子らしい、女の子らしいといわれる性差の影響がよみとれる。次に色を中心にみると、女子の中では、食物系(りんご)やポストを赤色系で表現し、男子・女子ともに共通な形では、植物系(葉や草)を緑系、花を赤系とするなどの常識的な色使いのもの、さらに家の形では黄赤系の色造形紙から作られた傾向が多く見られた。固定色がないハートやリボンの形の色では赤色系、星の形の形では黄系の色造形紙の使用が多く見られた。動物系の形は男子・女子ともに見られたが、その形から特定の男子では動物の種類を判断するのは難しいが、女子ではうさぎや熊など動物の特徴を特定できるものが多く、使用されていた色造形紙は赤色、黄赤色が最も多かった。形は色から連想された関係あるものと、色と形の関係が見当たらないが、形の嗜好が強く感じられたものとの両面が感じられた。

5. まとめ

実験授業の結果、1番目を選択した色造形紙は子どもの色の嗜好性を知る手がかりと考えられ、本調査では、男女ともに青系統が選ばれた。2・3番目に選択した色造形紙には、「1番目に選択した色造形紙に合う、似合う」と思う色を選択させることを条件としたことから、ここでは潜在的な配色意識を知ることができ、男子では青系、緑系、女子では赤系、黄系の中差あるいは類似色相配色が多く見られた。本研究で行った紙工作授業は、図画工作担当教官によって行われたが、種々の制約によって実際の授業の中では行ったことのない試みの授業であり、子どもの色彩嗜好、造形能力、空間の捉え方などを知る上に貴重なデータを得た。今後、子どもの成長の過程でのさまざまな体験は色と形の造形活動にどのように影響するのか、発達という過程の影響について追跡し、中学年、高学年での色の使い方や形の表現を分析していくことが今後の課題といえよう。

表1

A-1	6.2R5.4/14.6	B-1	2.4R6.5/11.5
A-2	5.8R7.3/9.2	B-2	5.5GY8.8/5.0
A-3	0.9GY8.6/10.5	B-3	6.5B6.6/7.2
A-4	4.0G5.1/8.2	B-4	1.2Y8.5/6.5
A-5	2.2B5.1/6.5	B-5	7.8Y8.9/7.9
A-6	4.9Y8.6/12.0	B-6	3.9B8.0/5.0
A-7	1.3YR6.6/12.7	B-7	1.7BG7.3/8.5
A-8	1.4YR4.1/2.8	B-8	8.1RP8.3/4.7
A-9	2.0P3.9/4.1	B-9	9.1YR8.0/10.2
A-10	8.9YR8.0/3.6	B-10	5.6P8.4/3.5

A: 日本色研事業 カラーフォルム

B: はくぶん ニューパステルペーパー

図1

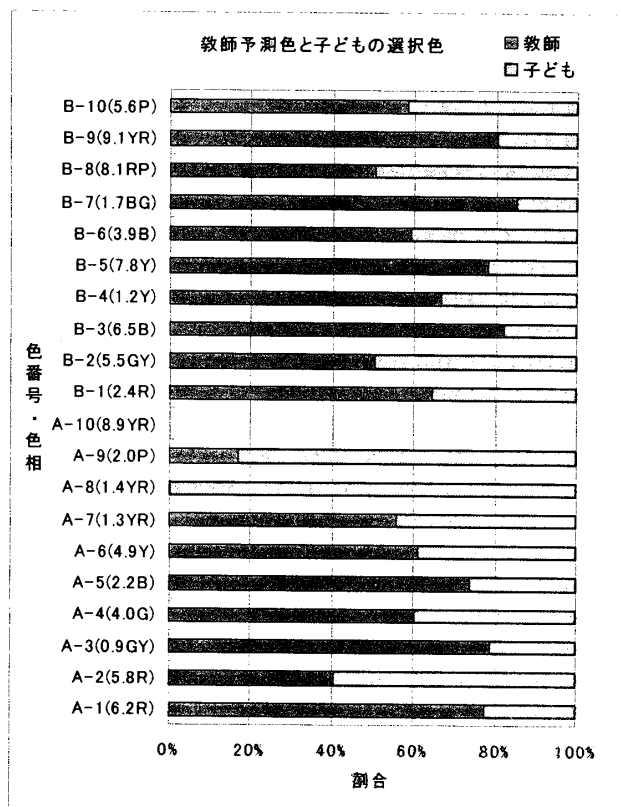


表2

形	男子 使用された色相	女子 使用された色相
うずまき	赤、黄	赤、黄、青紫
ハート	赤、黄赤、青	赤、黄赤、黄、緑、青
星	赤、黄	黄、青
人物系	黄、緑、青	黄赤、青
動物系	黄赤、黄、緑、青	赤、黄赤、黄、黄緑、緑
植物系	黄赤、黄、緑	赤、黄赤、黄、緑、青紫
魚系	青	赤、黄赤、黄、緑、青、紫
家	赤、黄赤、黄、緑、青	赤、黄赤、黄、緑、青、紫
太陽	黄、緑、青	
船	黄、青	
怪獣	黄、緑	
リボン		赤、黄、青
昆虫系		緑、青
食物系		赤
建造物		赤、黄赤、紫

謝辞

本調査研究を行うことにあたり、大阪市立阪南小学校 学校長青木正美氏並びに実験授業にご協力を頂きました1年生ご担当の先生方に感謝の意を表します。

参考文献

1. 小林智砂・佐藤昌子: 図画工作科の授業に関する調査研究(第1報)ー紙工作についてー, 日本色彩学会第33回全国大会予稿集(2002)
2. 日本色彩研究所「新基本色表シリーズ12」日本色研事業 1987年
3. 中島義明・神山 進編者「まとうー被服行動の心理学ー」朝倉書店 1996年 p161~165